

福井県環境科学センター年報

第 31 巻
2 0 0 1
(平成13年度)

Annual Report
of
Environmental Research Centre
of Fukui Prefecture
vol.31
2001

福井県衛生環境研究センター

は じ め に

このたび、平成13年度の業績を福井県環境科学センター年報（第31巻）としてとりまとめました。ご高覧いただき、ご指導ご助言を賜れば幸いに存じます。

本県における大気、水質等の環境の状況は、環境基準をおおむね達成しており、全般的に良好な環境が維持されております。しかしながら、北潟湖、三方五湖の湖沼や都市部の中小河川では依然として水質の汚濁が認められ、また一部地域の地下水汚染についても十分な改善が図られていない状況にあります。これらの問題については当センターが優先して取り組むべき重要な課題であり、今後とも精力的に調査研究を進めていかなければならないと考えております。

ダイオキシンの残留性有機汚染物質（POP's）による汚染は、今のところ本県では確認されていないものの、いわゆる環境ホルモンの一つとして疑われているビスフェノールAが産業廃棄物最終処分場の排水等から高い濃度で検出され、現在その対策が進められています。

これらの物質による汚染は生物に世代を超える影響を与えるものとして環境保全上重要な課題であることから、当センターにおいてはダイオキシンや環境ホルモンを分析する専用の研究棟の整備を進めております。平成13年度においては、ダイオキシン類の分析施設がまず完成し、研究をスタートさせることができました。今後、環境のみならず食品、母乳等の生物影響を含め、幅広く調査研究を実施することとしております。

科学と技術の世紀といわれた20世紀が終わり、豊かさと便利さを手にした私たちですが、今、その代償として地球環境問題をはじめとして多くの課題に直面しています。こうしたことから本年1月、県では環境と調和した循環型の社会づくりに積極的に取り組むことを目的として「環境立県 福井」を宣言しました。すでにその実現に向けた種々の施策が講じられつつありますが、当センターも環境保全に関する技術的な中核機関として、その役割を適切に果たせるよう関係機関と連携し監視・調査研究活動を進めてまいります。

なお、当センターは多様化するニーズに対応し、効果的・効率的な組織運営を図るため、本年4月、衛生研究所と統合し新たに福井県衛生環境研究センターとして発足いたしました。従いまして、環境科学センターの年報は本誌が最終号となります。

長年にわたり本誌の編集に力を注いでこられた先輩諸氏のご努力に改めて敬意を表しますとともに、本誌の内容に対し適切にご指導、ご助言をいただいた関係各位に心からお礼を申し上げます。

環境科学センターとしての歴史には一応のピリオドを打つことになりますが、今後とも所員一同、技術の分野から地域の環境を守り、「すこやかな生活と快適な環境の創造をめざして」貢献ができるよう努力を重ねてまいります。

皆様の一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年12月

福井県衛生環境研究センター

所 長 岡 島 一 雄

目 次

I 運 営 概 要

1	組織と研究体制	
1.1	沿 革	1
1.2	組 織	2
1.3	予 算	4
1.4	施設の整備状況	5
1.4.1	平成13年度新規購入備品	5
2	平成13年度業務実績	
2.1	地域の環境の現状把握とその保全対策の推進	6
2.1.1	大気環境の保全	
	(ア) 大気汚染状況の監視	
	(1) テレメータ常時監視事業	6
	(2) 簡易測定	7
	(イ) 工場等の監視・指導	
	(1) 煙道行政検査	8
	(2) 工場立入検査指導事業	8
	(ウ) テレメータ常時監視体制強化事業	8
	(エ) 環境影響評価審査事業	8
2.1.2	水環境の保全	
	(ア) 水質汚濁状況の監視	
	(1) 公共用水域常時監視調査	8
	(イ) 工場等の監視・指導	
	(1) 工場排水取締強化事業	9
	(2) 公共用水域補完調査（ゴルフ場農業水質調査）	9
	(ウ) 湖沼の富栄養化の原因究明調査とその対策	
	(1) アオコ対策技術の研究	9
	(エ) 環境基準類型指定見直し調査	
	(1) 水域類型指定調査	10
2.1.3	土壌・地盤環境の保全	
	(ア) 地下水質汚染状況の監視	
	(1) 地下水質監視調査	10
2.1.4	有害化学物質対策	
	(ア) 大気環境における有害物質調査	
	(1) 有害大気汚染物質監視事業	11
	(イ) 水環境における有害物質調査	
	(1) 化学物質環境汚染実態調査	12
2.1.5	騒音・振動・悪臭の調査・指導	12
	(1) 騒音・振動防止対策事業	12
	(2) 悪臭防止対策事業	12

2. 1. 6	大気・水質異常時における原因究明調査	
(1)	公共用水域における魚類のへい死調査	12
(2)	悪臭苦情対策調査	13
2. 2	環境情報システムの充実	
2. 2. 1	自主的な活動の推進	
(ア)	環境情報の提供	
(1)	環境情報総合処理システム事業	13
(イ)	環境教育・学習の推進	
(1)	環境教育	15
(2)	講師派遣	15
(3)	施設見学・環境情報コーナー利用	16
(4)	2001 越前・若狭の産業フェア出展	16
(5)	「さばえ環境フェア2001」出展	16
(ウ)	指導・研修等	
(1)	研修の受入れ	16
(2)	指導・研修会	17
2. 3	地球環境保全への貢献	
2. 3. 1	地球環境問題への取り組み	
(1)	酸性雨監視調査事業	17
2. 4	学会・研修等への参加	
2. 4. 1	学会等への参加	18
2. 4. 2	研修への参加	18
2. 4. 3	学会・誌上发表等	
(ア)	学会等発表	18
(イ)	所内研究発表会	19

II 調査研究報告

1 調査研究

1.	環境情報総合処理システムの機能強化と活用について（第1報）	
—	表形式情報検索・表示機能の改善—	21
2.	環境情報総合処理システムの機能強化と活用について（第2報）	
—	「グリーン購入ふくいネット」のための仮想サーバの導入—	26
3.	光化学オキシダントの濃度分布に関する解析	
—	三方郡、今立郡地域と他地域との類似性について—	29
4.	ブロードバンド時代の環境情報システムに関する研究	
—	現行システムの現状調査—（「みどりネット」に誰が何を期待しているのか）—	40
5.	北潟湖および三方湖における動物プランクトンの季節的変動について（第1報）（1997-2001年度）	56
6.	北潟湖および三方湖における植物プランクトンの季節的変動について（第1報）（1997-2001年度）	68
7.	水流機によるアオコの拡散・発生抑制試験（第3報）	77
8.	超音波・オゾン発生装置によるアオコ除去・増殖抑制試験（第3報）	86

2 ノー ト

1.	福井県における揮発性有機化合物のバックグラウンド濃度について	96
2.	陸水環境に及ぼす酸性雨の影響に関する研究（第4報）	101

Ⅲ 運 営 資 料

1 大気汚染常時監視調査関係資料	111
2 大気汚染調査関係資料	123
3 水質汚濁調査関係資料	129
4 環境科学センターの主な業務変遷	135

大気汚染常時監視の月間値、大気汚染調査結果、公共用水域常時監視結果については、紙面掲載を省略し、福井県衛生環境研究センターのホームページ「みどりネット」(<http://www.erc.pref.fukui.jp/>)の環境情報データベースに収録しています。